

足本来の機能を

生かすためのインソール。

正常歩行の関節運動を再現させ、

正しい筋活動を補助する。



## 米国足病学 × 足専門の義肢装具士

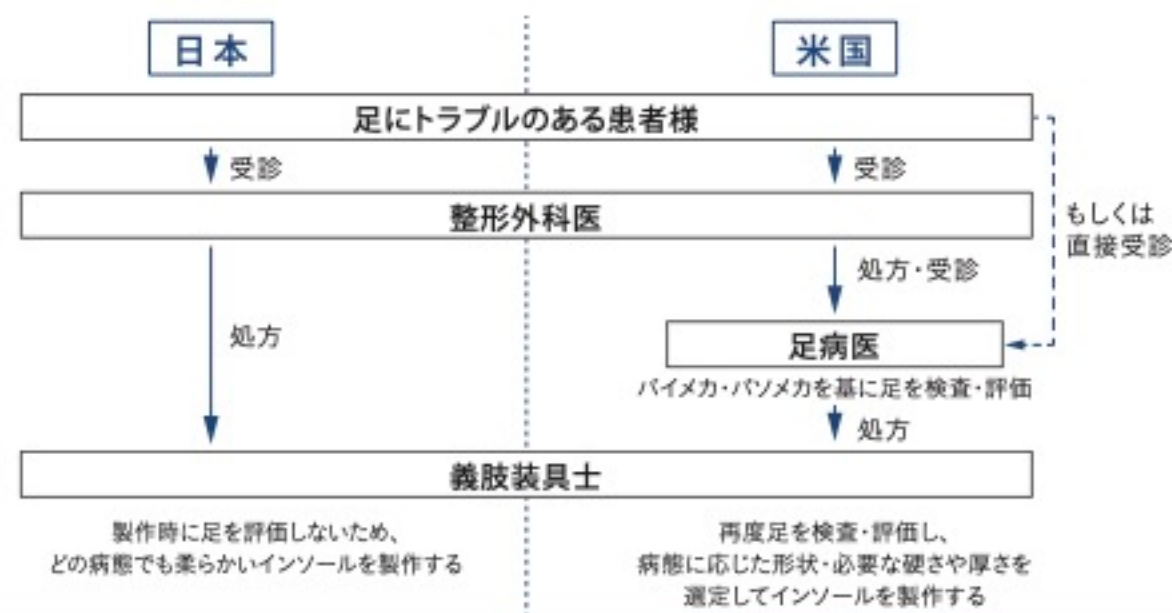


足の医学・インソールの超先進国である米国においてインソールは「足のニュートラルポジション」の保持を基本とする、バイオメカニカルデバイスです。米国足病学では、ニュートラルポジションにおいて「足のパフォーマンスが最も発揮され、怪我・故障のリスクが少なく、様々な足病<sup>※1</sup>の治療・予防に効果的」とされ、医療現場から予防医学、プロスポーツシーン、ワークシーン、デイリーユースまで、老若男女を問わず幅広く装着されています。足を専門とする日本の義肢装具士・装具製作技術者が、米国足病学の知識・技術を用いて、丁寧にカスタムメイドします。<sup>※2</sup>

※1 外反母趾、内反小趾、扁平足、強剛母趾、足底筋膜炎、巻き爪、胼胝(タコ)、鶏眼(ウオノメ)など、足の疾患の総称

※2 米国の足病医、足装具士、臨床コンサルタントを顧問に置く会社と提携し、定期的に知識と技術をアップデートしています

### インソール製作の流れ〈日本とアメリカの違い〉



弊社では、日本のインソール製作に不足している「バイメカ・パソメカを基に行う足の検査と評価」を行い、適正なインソールを製作いたします。

### インソールのポイント

#### 衝撃吸収材

クッション性が必要な部位には米国足病医会認定素材のPPTシート<sup>®</sup>を採用しています。



#### ヒールポスト

ヒールポストは超硬質のEVA材料によりヒールコンタクト時の距骨下関節の回内を、狙った角度で止めます。

#### シェル素材

シェルはその人その人に合わせた立体形状をしており、距骨下関節・横足根関節をコントロール。軽くて丈夫なカーボン繊維で作ることも可能です。硬質なプラスチックを使用する上で正確な検査・採型をしなければ適合は得られません。

### インソールの効果

#### 関節可動域のコントロール

従来のインソールはクッション材を1層もしくは2層に重ねて製作されていました。このクッションインソールでは荷重分散は出来ませんが、関節可動域のコントロールまでは出来ません。

低アーチ、外反母趾、開張足などの足病は、関節可動域をコントロールしなければ、それらの構造上の原因を解決することはできません。

コントロール型インソールは硬質プラスチックを用いることで関節可動域のコントロールが可能になります。

#### 〈従来品との比較〉



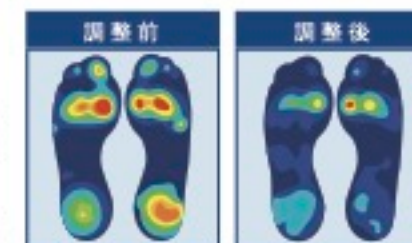
#### 胼胝・潰瘍

足底部の胼胝・潰瘍は肥厚部を削るだけではなかなか治らず、再発を繰り返します。これは足に肥厚が出来るメカニズムが存在するからです。インソールは肥厚ができる原因を補い、肥厚部にかかる力を減らすことで胼胝が軽減、消失します。

#### 立位・歩行安定

インソールを入れることで骨配列が正常になり筋効率が良くなります。その為、本来持っている足の筋力が発揮でき、転倒予防、立位・歩行の安定をもたらします。

また荷重圧を分散させることで、足の負担や痛みを軽減させ、歩行を楽にします。



※イラストはイメージです